

校名：宇都宮大学教育学部附属小学校

所在地：〒320-8538

電話番号：028-621-2291

記載日：2017年1月30日 記載者：新村幸江 記載者役職：副校長

【校風、おおまかな特色】

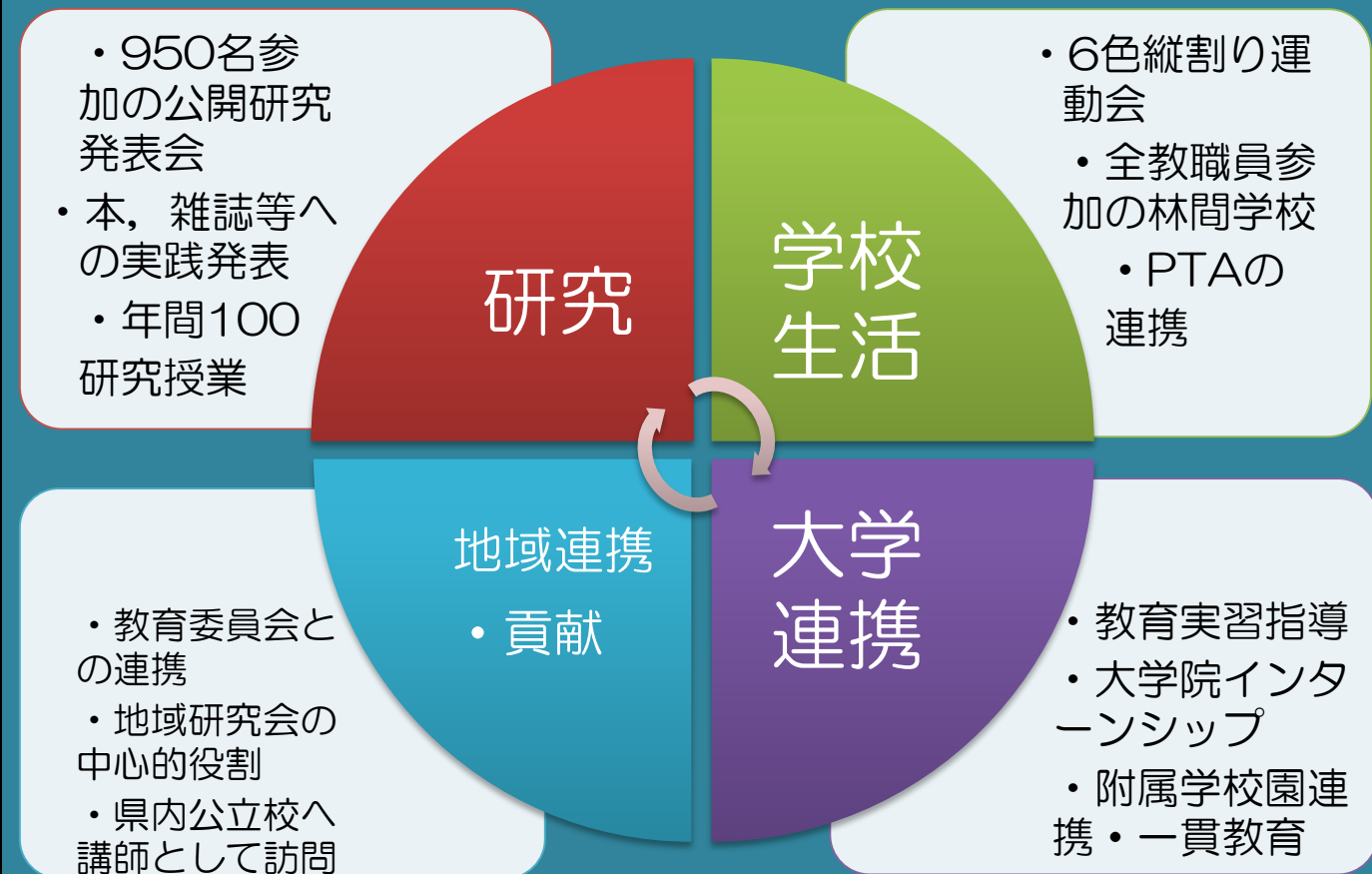
本校は栃木県宇都宮市の西に位置し、幼稚園・中学校が隣接している。明治7年に「類似師範学校附属小学校」として栃木旭町旧足利藩陣屋内に設置された。昭和41年、「宇都宮大学教育学部附属小学校」に名称を変更し現在に至る。明るく自由な校風で、子ども達は、生き生きと学校生活を送っている。

教育目標に「自ら考える力と創造的な知性や技能を養い、強靱な意志力と実践力を持った健康で心豊かな子どもを育てる」を掲げ、先導的・先進的な研究校としての役割と教員養成の使命の上に、子ども達に最良の教育を行うことを目的として、日々の教育研究及び実践を行っている。

【卒業生の活躍状況】

【勤務経験者の公立学校・教育委員会等へ戻った後の活躍状況】

宇都宮大学教育学部附属小学校の主な特色

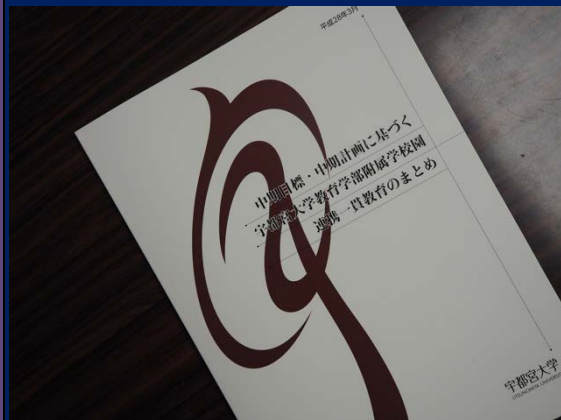


「6色縦割り運動会」

師範学校から続いている伝統のハウス制を継承し、運動会では6色（海，山，空，日，花，星）の縦割り班に分かれ熱戦が繰り広げられる。6年生の子ども達を中心に、各色が一つになって優勝を目指し練習する姿が多く見られる。

附属学校園連携・一貫教育」

附属学校園では、8つの実践班を設け、幼稚園，小学校，中学校，特別支援学校，大学のすべての教員が「連携・一貫教育」について月に1回程度研修を行っている。昨年度は、6年間のまとめを刊行し、実践の成果を県内外に広めている。





「教育委員会との連携」

県教育委員会、宇都宮市教育委員会、河内教育事務所、総合教育センター、県小学校教育研究会部会長の先生方をお招きし、年に2回授業を参観して頂き指導助言を受け研究を深めている。研究の成果は、公開研究会で発表したり県内小学校に要請され訪問する時の指導に生かしたりしている。

「950名参加の公開研究発表会」

6月の公開研究発表会には、全教科領域に渡って37授業を3日間に分けて公開する。県内外の教員、教育委員会関係者、大学関係者、学生等、950名の参会者がある。授業の子ども姿を通して忌憚のない意見が飛び交う授業研究会も行われる。



「PTAの連携」

保護者・教職員全員に防犯腕章を配布しパトロールをしたり附小サポーターとして保護者が授業に参画したりする等、PTAの連携を密にしている。PTA常置委員会以外にも学校のためになるプロジェクト（先輩保護者と話す会、学長講演会等）を保護者自身が考え活動する響委員会もある。



「年間100研究授業」

公式の研究授業76本に加え、部内等の研究授業を含めると年間100本以上の研究授業を行っている。そうした成果は、研究論文、単著、共著、雑誌、機関紙等に発表している。また、他校や講座に講師として呼ばれたり、文科省関係の会議に要請されたりする等、全国的に活躍している。



【地域において、現在、どのような存在であるか】

- 公開研究発表会において、800名近い参会者の9割近くが栃木県の教員であることから、地域の教育を支えていると考える。参会者のニーズは、先進の教育情報を得たい、明日の授業の参考になる授業が見たい、どのような研究が行われているのか知りたい、大学の先生の話を知りたい、自分の学校の研究に参考にしたい、附属小学校の子ども達の様子が見たい等、多岐に渡る。
- 地域の各種研究団体、サークル等の活動の多くは、附属小学校を会場として行われている。附属小学校教員は、その中心的な役割を果たしている。また、全国、関東甲信越地区の発表が栃木で行われるときには、本校教員が役員となって運営から事務までを担う教科領域等が多い。これらのことから、地域の研究活動のリーダー的存在となっている。

【附属学校の存在意義、貴校の存在意義について】

- 本校は、宇都宮大学の教育実習生を年間90名程度受け入れている。教育実習期間中、実習生は一人当たり12時間程度の授業を行う。延べ1000時間以上の授業を指導していることになる。また、本校教員は、1授業に対して、15分の事前指導3回、事後指導を1回行うことで質の高さを保持している。さらに、教職大学院・既存の大学院のインターンシップも受け入れ指導に当たっている。本県のこれからの担う人材育成という観点から本校の存在は大きいと考える。
- 宇都宮大学教員と共同研究を行っている。各教科の研究については、紀要、指導案等を大学教員と検討し、授業実践を通して検証している。連携一貫教育については、年に5回程度、附属学校園の教員と大学教員で校園種を越えた研究を行っている。こうした研究の成果は、公開研究会で発表したり、冊子にまとめ教育委員会をはじめ諸機関に配布したりしている。大学教員と共同で研究した成果を地域の教育力向上に役立っているという点で本校の役割は大きいと考える。
- 前述の通り、本校は地域の教育のリーダー的存在となっている。本校を拠点とした研究が地域の学校に影響を与えている部分が多々ある。また、これから増えていく新規採用者にとって、学びの場である附属小学校の果たす役割は大きいと考える。